

フォーラムで平安遺跡の魅力学ぶ



講演する岡本氏

市内で78カ所確認されている平安時代の遺跡への理解を深めてもらおうと、NPO法人つがる縄文の会（川嶋大史理事長）は、「JOMON 亀ヶ岡文化フォーラム2026：平安遺跡編」を開催。県埋蔵文化財調査センターの岡本洋氏が、自身が発掘に携わる森田地区の吉田遺跡の発掘調査について講演しました。

岡本氏は、建築部材や燈明皿、箸などの遺物が出土していることを紹介したほか、令和7年度の調査では、まじないに使われる「斎串（いぐし）」が多く見つかったことが印象深かったと説明。「都の宗教儀礼が、遠く離れたこの地にも伝わっていたことが分かる」と話しました。

フォーラムではこのほか、市教育委員会学芸員が市内の平安遺跡の発掘調査結果などについて報告しました。

クラフトビール「Magic Spell TSUGARU」完成

弘前市のビール工房「Be Easy Brewing」（代表・ギャレス・バーンズ）が、本市をイメージしたクラフトビールを完成させ、倉光市長に報告しました。

同社では、県内全40市町村をそれぞれテーマにしたクラフトビール「Magic Spell」シリーズの製造を進めており、今回が第13弾。初めての試みとしてウーロン茶を使用し、爽やかさと香ばしさを両立した味わいに仕上げました。ラベルには、漫画「ふらいんぐういっち」作者でカイトくんとタマキちゃんのデザインを手掛けた石塚千尋氏によるイラストが描かれています。



倉光市長にビールの紹介をするギャレスさん(右)

この日、報告に訪れたギャレスさんは「ドライですっきりしていて、ウーロン茶の香ばしさを感じられるビールに仕上げました。和食にも合うと思うのでぜひ味わってみてほしい」と話しました。また、試飲した倉光市長は「爽やかでとてもおいしい。香りもよい」と感想を述べました。

このクラフトビールは1本700円（税込み）で、県内のカブセンターなどで数量限定で販売されています。



完成した「Magic Spell TSUGARU」

大雪被害支援で明治安田がタオルを寄贈



タオルを寄贈した菱沼五所川原営業所長(左)

市と「健康増進に関する連携協定」を締結している明治安田生命保険相互会社青森支社が、市にタオル1,000枚を寄贈しました。

これは、同社が取り組む「地元の元気プロジェクト」の一環で、今冬の大雪の影響で市が災害救助法の適用を受けたことで寄贈されたものです。

この日、菱沼一輝五所川原営業所長が市防災備蓄倉庫を訪れ、「災害救助法が適用されたことを受け、少しでも支援できればと思い、さまざまな用途で使用できるタオルを寄贈しました。今後も有事の際にはお力になれるよう取り組んでいきます」と話しました。

寄贈されたタオルは、今後の災害発生時などに役立てられる予定です。

児童の安全を願って 伊藤鉱業が小学新1年生に防犯ブザーを寄贈

3/2
市役所



倉光市長に目録を手渡す天坂社長(中)と神栄取締役営業部長(右)

株式会社伊藤鉱業(天坂順一代表取締役社長)が新入学児童の登下校時の安全に役立ててほしいと、市に防犯ブザー150個を寄贈しました。同社は、地域貢献活動の一環として平成28年から市に防犯ブザーを寄贈しており、今年で11回目。防犯ブザーは市内全小学校の新1年生全員に贈られます。

この日、天坂社長と神栄取締役営業部長が市役所を訪れ、倉光市長に目録を手渡しました。

天坂社長は「これで少しでも子どもたちが安心して通学できればうれしい。これからも継続していきたい」と話しました。

倉光市長は「今回も寄贈していただき、心から感謝申し上げます。先生方とともに子どもたちに、しっかりと使い方を指導していきます」と述べました。

第29回 図書館を使った調べる学習コンクールで入賞

「第29回図書館を使った調べる学習コンクール」(図書館振興財団主催)の賞状伝達式が市立図書館で行われ、羽石瑞貴さん(柏小6年)と野呂依央さん(向陽小2年)に山谷教育長から賞状が手渡されました。

2人の作品は、全国から寄せられた127,459作品の中から見事佳作に選ばれました。

山谷教育長は「今回の経験が、これからの学びや将来の夢につながることを期待しています」とたたえました。

羽石さんは、「入賞できると思っていなかったのが、うれしいです。歴史が好きなので、中学校でも勉強を頑張りたい」、野呂さんは「伝記について興味があるので、次はラジウムを発見した科学者・キュリー夫人について調べたい」とそれぞれ話しました。



3/7
図書館

賞状と入賞作品を手にする羽石さん(右)と野呂さん

大空に自慢の凧舞う

「第29回つがる市稲垣凧揚げ大会」(稲垣凧の会(横山勇一会長)主催)が開催され、県内のほか、東京都や福島県などから20団体約150人の愛好家が参加し、腕前を競い合いました。

競技は凧の形や大きさごとにクラス分けして行われ、審査員が「凧揚げマナー・安定度・鳴り」の3項目を採点。

この日は、肌寒く足元が悪かったものの、適度な風に恵まれ、参加者は巧みに糸を操りながら大空に自慢の凧を揚げ、津軽凧特有の「ブンブ(凧に取り付ける紙)」が会場に大きな音を響かせました。

子供の部で最優秀賞に輝いた川嶋泰綺くんは「参加して楽しかった。賞を取れてうれしい」と笑顔で話しました。



3/8
岩木川
河川公園

凧を揚げる参加者